様式第２号（第３条関係）

審 議 会 会 議 録

会議名称	令和６年度　第２回　伊達市健康づくり推進協議会定例会議		
議　　題	(1)令和６年度保健事業の実施状況（中間）について ①第２次伊達すこやか親子 21 ②第３次健康づくり伊達 21 (2)第３次伊達すこやか親子 21 の策定状況について		
開催日時	令和６年 12 月 10 日（火）午後６時 30 分から午後６時 45 分まで		
場　　所	伊達市保健センター		
出 席 者	委員 14 名（欠席者１名）		
	所属部課名	健康福祉部健康推進課	
公　　開 非 公 開 の　　別	☑　公　開	傍聴者の人数	なし
	□　非公開	非公開の理由	

【会議の概要】

1　開会

2　会長挨拶

3　議事

(1)令和６年度保健事業の実施状況（中間）について

①第２次伊達すこやか親子 21

＜質疑応答＞

委員

「２．子育て期」の主な取り組みのうち、児童虐待の予防、早期発見について、外から見えない虐待はどのように把握しているのか。

事務局

健診時のお子さんの様子やお母さんとの話の中で虐待の把握に努めるとともに、関係機関と連携し情報共有を行い早期発見に努めている。

②第３次健康づくり伊達 21

＜質疑応答＞

委員

「分野別の実施状況／(6)喫煙」のうち、ハイ・チェッカー簡易検査の実施について、喫煙者だけではなく配偶者も検査の対象としてはどうか。

事務局

ご意見を今後の参考とさせていただく。

(2)第３次伊達すこやか親子 21 の策定状況について

＜質疑応答＞なし

4　閉会

令和６年度　伊達市健康づくり推進協議会（第２回）定例会議

日時　令和６年12月10日(火)
　　午後６時30分より

会場　伊達市保健センター
　　集団検診室

〈会議次第〉

１．開会

２．会長挨拶

３．議事

(1)令和６年度保健事業の実施状況(中間)について　資料１
　①第２次伊達すこやか親子２１
　②第３次健康づくり伊達２１

(2)第３次伊達すこやか親子２１の策定状況について

４．その他

５．閉会

令和6年度「第2次伊達すこやか親子21」の実施状況（中間）について　資料1

1．妊娠・出産期

〇基本目標：安心して妊娠、出産ができる

【評価指標】　※ベースライン：平成 26・27 年度実績

指標名	ベースライン	R6年度 中間実績	R5年度実績 （中間）	最終評価目標
妊娠 11 週以下での妊娠届出率	92.4%	94.4%	95.0%	95%
マタニティ教室に満足した人の割合	91.8%	91.5%	96.7%	93%
3食食べている妊婦の割合	78%	69.2%	55.2%	90%
妊婦の喫煙率	8.1%	2.4%	1.5%	3.8%

<table>
<tr><th>主な取り組み</th><th>令和6年度中間実績（10 月末現在）</th></tr>
<tr><td>**母子健康手帳交付時の相談体制の充実**

・母子健康手帳交付
・妊婦一般健康診査・超音波検査の助成
・初回産科受診料の助成
・妊産婦タクシーチケットの助成</td><td>【妊娠届出数と母子健康手帳交付週数（割合）】
<table><tr><th>妊娠届出者数</th><th>11 週以内</th><th>12～19 週</th><th>20 週以降</th></tr><tr><td>71</td><td>67(94.4%)</td><td>2(2.8%)</td><td>2(2.8%)</td></tr></table>・妊娠届出者全員に妊婦健診受診の勧奨、妊娠中の生活や不安や疑問に対する個別対応を実施。栄養相談も原則全妊婦に実施している。
・20 週以降の母子健康手帳交付は 2 件で、若年での妊娠であった。

【妊婦一般健康診査・超音波検査の受診者数と受診結果】
<table><tr><th>受診者
（実）</th><th>受診者
（延）</th><th>異常なし</th><th>要精密
検査</th><th>要治療</th><th>未把握</th></tr><tr><td>134</td><td>838</td><td>834</td><td>1</td><td>3</td><td>0</td></tr></table>【妊産婦タクシーチケットの助成】
・利用者数：2 名
タクシーチケットの配付がいざという時の安心につながったという意見も多く、安心して出産できる環境づくりにつながっている。

【初回産科受診料の助成】
・助成により、妊婦の経済的負担軽減につながっている。</td></tr>
<tr><td>**妊娠中期の相談体制の充実**
・プレママ電話相談</td><td>・63 件/79 件
未実施の 16 名は就労を継続していることで日中の連絡が取りにくい状況があるが、産休等のタイミングで連絡を取り、相談対応する。</td></tr>
<tr><td>**マタニティ教室の充実**

・マタニティ教室</td><td>【対象者数と参加者数（割合）】
<table><tr><th>対象者数</th><th>参加妊婦数</th><th>夫・家族の参加率</th></tr><tr><td>33</td><td>1 課目:22(66.7%)
2 課目:16(48.5%)</td><td>22(100%)</td></tr></table>・昨年度よりもやや高い参加率となっている。参加理由は「体験をしたい」「パートナーに理解を深めてもらう」という理由が多かった。
・参加者からは「実際に体験することでイメージが深まった」などの声も多数聞かれている。
さらに、支援が必要な妊婦を継続的に支援する機会にもなっている。</td></tr>
<tr><td>**食育の推進**

・妊婦への栄養相談</td><td>・母子手帳交付時に、妊娠届者全員にリーフレット等による情報提供を実施。
管理栄養士による面接や電話相談を実施し、妊娠中の食事のとり方や体重管理、食生活の不安等について相談に応じた。
・妊娠前に欠食習慣があった妊婦には、後日電話確認をする等、生活状況に応じた食習慣の見直しについて提案。産後は児の健診の場において継続支援を行い、改善を促している。</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>**禁煙禁酒指導**

・母子健康手帳交付時やマタニティ教室での指導</td>
<td>【妊婦・家族の喫煙状況】
<table>
<tr><td></td><td>吸わない</td><td>妊娠してやめた</td><td>現在も吸う</td><td>未記入</td></tr>
<tr><td>妊婦</td><td>59(71.1%)</td><td>22(26.5%)</td><td>2(2.4%)</td><td>0(0.0%)</td></tr>
<tr><td>家族</td><td>48(57.8%)</td><td>3(3.6%)</td><td>31(37.3%)</td><td>1(1.2%)</td></tr>
</table>
【妊婦の飲酒状況】
<table>
<tr><td></td><td>飲まない</td><td>妊娠してやめた</td><td>現在も飲む</td><td>未記入</td></tr>
<tr><td>妊婦</td><td>42(50.6%)</td><td>41(49.4%)</td><td>0(0.0%)</td><td>0(0.0%)</td></tr>
</table>
（令和6年度母子手帳交付時アンケートより）
・母子健康手帳交付時に妊婦と同居家族の喫煙状況、妊婦の飲酒状況を確認し、喫煙、飲酒があった場合にはリーフレットを使用して禁煙・禁酒指導を実施している。</td>
</tr>
<tr>
<td>**地域への働きかけ**

・マタニティマークの普及</td>
<td>・マタニティマークについてホームページに掲載し、母子健康手帳交付時に全ての妊婦にマタニティマークキーホルダーを交付している。</td>
</tr>
<tr>
<td>**ハイリスク者への支援体制の充実**

・母子健康手帳交付時のリスク把握</td>
<td>【ハイリスク妊婦】
<table>
<tr><td></td><td>ハイリスク妊婦</td><td>全妊婦に占める割合</td></tr>
<tr><td>R6</td><td>24 名</td><td>26.6%</td></tr>
</table>
・支援が必要な妊婦をスクリーニングするため、リスクチェック表を使用。リスク要因として母の精神既往、サポートなし、経済不安などが多い傾向にあるが、生活状況を含めた多様なリスク要因を併せ持つ妊婦も多く、支援の個別性が高まっている。
・月に 1 度、係内でハイリスク妊婦検討会を実施。支援の方向性を検討し、個別支援等を行っている。</td>
</tr>
<tr>
<td>**妊娠期からの虐待の予防、早期発見**</td>
<td>・特定妊婦：4名(妊娠期養育支援連絡票を受理した妊婦)
ハイリスク妊婦のうち特に支援が必要な妊婦について、子育て支援課や医療機関と連携し妊娠中から訪問や電話による支援を実施した。必要時、支援プランの作成を行っている。</td>
</tr>
</table>

2. 子育て期

〇基本目標：安心して子育てができる
　　子どもが順調に成長、発達できる

【評価指標】　※ベースライン：平成 26・27 年度実績

指標名		ベースライン	R6年度中間実績	R5年度実績中間	最終評価目標
育てにくさを感じたときに対処できる親の割合※2	4ヵ月	82%	90.0%	72.2%	90%
	1歳6ヵ月	65%	84.2%	69.2%	85%
	3歳	67%	76.0%	80.8%	85%
子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合※2	4ヵ月	95%	96.7%	97.9%	現状維持
	1歳6ヵ月	94%	95.8%	95.8%	現状維持
	3歳	80%	73.0%	77.4%	90%
う歯のない3歳児の割合		83.3%	88.3%	86.0%	88.7%
1歳6ヵ月までに四種混合（第1期 3 回）・麻しん・風しんの予防接種を終了している者の割合	四種混合	97.1%	99.3%	95.8%	現状維持
	麻しん・風しん	97.1%	93.4%	91.7%	現状維持

※2：国の指標より

主な取り組み	令和6年度中間実積（10 月末現在）
新生児訪問の実施 ・新生児訪問 ・養育者支援保健・医療連携システム	【新生児訪問】 （出生数 72、対象数 79、訪問数 69、要継続支援 31(44.9%)） ・訪問後は係内で月に支援方法の検討を実施。児の発育や授乳状況ほか、母の体調や精神面、生活状況についての問題が多く、電話や訪問等で継続支援を実施。 【養育者支援保健・医療連携システム】 （依頼件数 18、要継続支援 12） ・依頼内容は児の健康問題や母の精神面が多い。 訪問後は支援の方向性を検討し、訪問や他の母子保健事業で継続支援を実施。
安心できる健診や相談体制の充実 ・産婦健診の助成 ・1 か月健診の助成 ・新生児聴覚スクリーニング検査の助成 ・乳幼児健診（4ヵ月・7ヵ月・1歳6ヵ月・3歳） ・幼児健康相談（1 歳・2 歳・5 歳） ・産後ケア事業（拡充）	【産婦健康診査の助成】 （2 週間健診件数 13、1 か月健診件数 68） 【1 か月児健診の助成】 （受診件数 61） ・今年度より1か月児健診の助成を開始した。 【新生児聴覚スクリーニング検査の助成】 （受診件数 70、要精密検査 3） 【乳幼児健診】 （対象数 63、受診者 61(96.8%)、要支援者 24(39.3%)） （対象数 75、受診者 75(100.0%)、要支援者 29(38.7%)） （対象数 75、受診者 69(92.0%)、要支援者 29(42.0%)） （対象数 131、受診者 111（84.7%）、要支援者 47（42.3%）） 【幼児健康相談】 （対象数 102、受相者 75(73.5%)、要支援者 23(30.7%)） （対象数 96、受相者 83（86.4%）、要支援者 34（41.9%）） （対象数 169、受相者 31（18.3%）、要支援者 18（58.0%））

【健診の満足度】(7 か月・2 歳問診票にて把握)

4 か月健診	64.9%
1 歳 6 か月児健診	55.6%

※ 「「信頼でき安心した」「医師・保健師の話がよかった」「栄養相談がよかった」のいずれかに回答した割合

【集団場面での健診事後確認実人数】

	年長	年中	年少	未満児	合計
保育所	11	48	56	52	167
幼稚園	3	19	22	0	44

・年齢が上がると共に要支援率は増加し、言語発達の遅れが多い。事後確認として市内保育所・幼稚園に巡回訪問し、関係者と方向性を検討し必要な支援につなげている(年 2 回×10 か所)。
・健診の満足度は 4 か月・1 歳 6 か月ともに前年より低く推移。子育てに不安を感じる母が多みられるため、今後も母の気持ちに寄り添い、安心して相談できるよう努める。
・近年、精神疾患の既往のある母や転入などによってパートナー以外の育児協力者がいない母の育児不安が多い傾向にある。産後早期からの支援が求められている。

【産後ケア事業】

	利用人数(実/延)
通所型(相談タイプ)	2/3
通所型(休息タイプ)	11/18
通所型(直営タイプ)	7/9

・産後ケア事業は延べ 30 件の利用があった。今年度より保健センターで通所型の直営タイプを開始し、産後に疲労のある産婦へ相談と休息の場の提供、栄養相談と昼食の提供をしている。利用者の満足度は高く、ニーズに合わせた支援を実施することができている。

育てにくさを感じている母への支援の充実

・個別支援
・リーフレットの配布

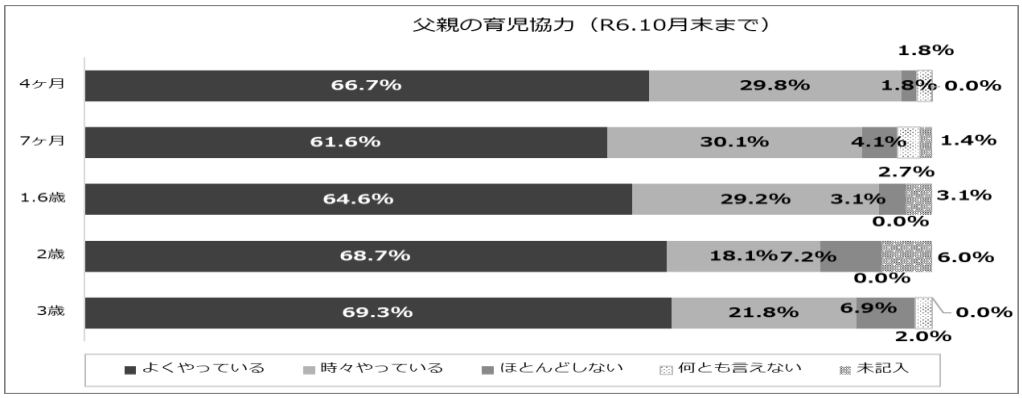
【個別支援】

	訪問(実/延)	相談(実/延)
R6	13/20	102/180

・精神疾患を持つ母親や子どもの発達に対する支援のほか、多問題を抱える家庭への相談支援が多い。

父親の育児協力の推進

・リーフレットの配布
・マタニティ教室



・乳幼児健診・相談アンケート結果より、6割以上の父親が育児参加している。

食育の推進
・離乳食講座
・幼児食講座
・親子料理教室
・子育て支援センター栄養相談

・乳児に対しては食生活改善推進員と協働で離乳食教室を1回実施。
・幼児については依頼による栄養教室を食生活改善推進員と協働で 3 回実施。
・児の食生活について不安を抱える保護者には、健診時や電話で相談を行ったほか、子育て支援センターでの栄養相談を継続。
・対象に合わせた栄養講話や個別栄養相談を3回実施。(年4回予定)

歯科保健の推進 ・歯科健診（1歳6ヵ月児、3歳児） ・フッ素塗布事業 ・フッ化物洗口（保育所、幼稚園）	・1歳6か月児：う歯罹患率　0％　1人平均う歯数　0本 ・3歳児：う歯罹患率　11.7％　1人平均う歯数　0.40本 ・フッ素塗布実施者数：延べ408名（対象1歳～4歳11か月） ・保育所・幼稚園のフッ化物洗口：延べ1,120名 ・健診では歯科衛生士による歯磨き相談を実施し、早期からのう歯予防対策のため、ブラッシング指導などを行っている。
関係者で共通理解のもと支援ができる体制づくり ・母子保健支援者連携会議	・母子保健支援者連携会議の開催：1回 現状や課題に沿った子育て支援についての各所属の役割や連携のあり方を検討している。今年度は事例検討を実施。来年度以降も事例検討を実施予定。 ・伊達市地域自立支援協議会発達支援部会へ参加 児の発達支援に関わる情報交換や子育て支援体制の整備等について検討。
地域の中で子育てを支える体制づくり ・子育て支援センターにおける育児講座 ・リーフレットの配布	・子育て支援センターで開催する乳児教室の前後に対象者の情報共有を行い、スムーズな個別支援につながるよう連携を図った。今後も各種事業や随時情報交換をしていくほか、新生児訪問では全員に子育て支援センターを紹介して利用を促す。
児童虐待の予防、早期発見	心配のある家庭への訪問同行など、状況把握や、必要時その後の子育て支援などについて、子育て支援課や関係機関と連携して虐待予防に取り組んでいる。

３. 学童・思春期

〇基本目標：正しい健康行動を学び実践できる

【評価指標】　※ベースライン：平成 26・27 年度実績

指標名		ベースライン	R6年度中間実績	R5年度実績（中間）	最終評価目標
性感染症の予防について理解している子ども（中3）の割合		20%	未把握	未把握	70%
自分を好きな子ども（中３）の割合 ※「好き」「どちらかというと好き」の合計		13%	59.2%※2	74.7%※2	上げる
朝食を欠食する子どもの割合	小6	6.9%※1	9.8%	9.0%	下げる
	中3	5.9%※1	8.1%	8.8%	下げる
12 歳児（中1）の1人平均う歯の本数		0.97 本	0.71 本	0.37 本	減らす
アルコールの危険性を知っている子ども（中3）の割合		40%	未把握※3	94.4%※2	80%
タバコの危険性を知っている子ども（中３）の割合		40%	未把握※3	98.5%※2	80%

※1：全国学力・学習状況調査より　※2：中学 2 年生へのアンケート　※3：今後実施予定

主な取り組み	令和6年度中間実績（10 月末現在）
性教育の実施 ・講話型/体験型 ・思春期懇話会 ＊養護教諭、室蘭保健所保健師等 ・がん教育の実施	〇性教育の実施 ・講話型　小学校3校7回　計 102 名　中学校2校2回　計 19 名 ・体験型　0回（貸し出し 1 校 1 回） ・年度中にすべての小中学校から依頼を受けており、計画的に実施している。 〇思春期懇話会（養護教諭等関係者）　0回 〇がん教育 小学校1校 69 名、中学校1校　11 名
食育の推進 ・保護者向け情報発信 ・高校生を対象とした食育活動	・食育センターと連携し、児童・保護者を対象とした栄養教室を 1 回（25 名）実施。 ・保護者や児童・生徒に向けた情報発信として、学校給食予定献立表の裏面に欠食など食の課題について掲載し、学校や関係施設等に配布。 ・高校生への食育に関する授業を 1 回（40 名）実施。
学校保健との連携の強化 ・フッ化物洗口（小学校、中学校） ・ピロリ菌検査・除菌支援事業	【フッ化物洗口実施状況】 在籍数／実施者数／実施率 小学校（6）：1263 人／1186 人／93.9% 中学校（4）：774 人／535 人／69.1% 【ピロリ菌検査・除菌実施状況】（対象：伊達市に住民票のある中学 2 年生） 対象者／受診者／実施率／結果 1 次検査：226／181／80.1%／陰性 175、陽性 6 2 次検査：6／4／66.7%／陰性 2、陽性 2 ・2次検査未受診の 2 名については、今後電話及び文書での受診勧奨を実施予定。

令和6年度「第3次健康づくり伊達21」の実施状況（中間）について

分野別の実施状況

※令和6年度中間実績：10月末現在　（　）内は令和5年度実績

（1）生活習慣病

〇特定健康診査、特定保健指導　〇がん検診　※別紙「各種健（検）診事業」参照

〇救急の日講演会（主催：胆振西部医師会、共催：室蘭保健所、伊達市）　令和6年9月10日（火）
演題：「がんと言われたら～2人に1人ががんになる時代～」
講師：洞爺温泉病院　院長　中谷　玲二　氏
受講者：36人（50人）

〇がん予防道民大会（主催：北海道、公益財団法人北海道健康づくり財団、公益財団法人北海道対がん協会、伊達市）
特別講演：「がんの予防について～1次予防と2次予防～」
講師：公益財団法人北海道対がん協会　会長　加藤　元嗣　氏
健康講話：「乳がんになっても前を向いて」 講師：タレント・声優　矢方　美紀　氏
参加者：900人（会場参加800人、オンライン参加100人）

〇健康教育・宅配講座　13回 167人　（19回　356人）
新型コロナウイルス感染症の影響により、依頼件数の減少傾向が続いていたが、5類移行後少しずつ依頼件数が増加している。

〇ヘルスアッププログラム「からだ改善㊙講座」（健康推進課、道南スコーレ、食育センター）
特定保健指導対象者及び高血糖、高血圧者のデータ改善、重症化予防を目的に実施
1回 2人　（3回28人）　※12、3月実施予定

〇糖尿病性腎症重症化予防
対象者：5人（新規5人）

〇がん患者アピアランスサポート事業
申請者数　10名　　一人当たりの助成額　25,919円

（2）栄養・食生活

〇食育パネル展（健康推進課、食育センター）6/1～7/2　1,558人　（R5：1,073人）
だて野菜の知識と地産地消の普及、野菜や果物摂取についての情報普及、栄養教室1回開催
（パネル展示、レシピ等の配付）
伊達産食材豊富な食育らんちの提供（食育情報を掲載したランチョンマット付）

〇栄養教室・考える栄養教室（食生活改善協議会、健康推進課）　7回　94人　（9回179人）
オーラルフレイル予防のための食生活や、野菜のとり方などをテーマに講話と調理実習を実施

〇食の情報提供（食生活改善協議会、健康推進課）
子宮がん・乳がん検診（6月・7月）におけるBMI算定やレシピ提供　34人　（148人）　※12月にも予定

〇市民向けセミナーの開催（食生活改善協議会、健康推進課）
伊達野菜セミナー　7月　36人
カルシウムセミナー　9月　22人

〇食生活改善協議会と連携した「食改さんおすすめレシピ」の配布
新しいレシピを作成した他、レシピ集を作成・発行、レシピ集QRコードの発行と配付物への掲載
市内6箇所の据置、会員から知人等への配付を実施　800部　（2444部）
「道民健康づくり推進週間」におけるパネル展（室蘭保健所主催）でのレシピ配付399部　（428部）

〇市ホームページへの掲載、チラシ等の配布
野菜レシピの掲載、「食改さんおすすめレシピ」の随時更新

〇食育セミナー（農務課、健康推進課）
胆振農業改良普及センター主催の豆普及イベントにて小学生対象に朝食の情報提供と、だて野菜のクリアファイル配布

〇40歳以下の市職員を対象にした食生活調査及び適切な食生活講座の実施

（3）身体活動・運動

〇市民への周知
健康教育や健康相談にて家でもできる運動について紹介。
血液検査結果別の運動方法のチラシを特定健診結果に同封。

(4)休養・こころの健康
○市広報・SNSに記事の掲載：自殺予防について　　1記事 ○ゲートキーパー養成研修会の実施　　実施なし ○自殺予防のパネル展示　　0回　※3月実施予定
(5)飲酒
○市広報に記事の掲載：適正飲酒について　1記事　12月号
(6)喫煙
○市広報に記事掲載：禁煙について　1記事　12月号 ○分煙・喫煙場所の徹底（伊達市役所、JA伊達市、商工会議所等） ○ハイ・チェッカー簡易検査の実施 慢性閉塞肺疾患の早期発見・禁煙の啓発のため希望者及び特定保健指導者で喫煙している者に実施 ○特定健康診査問診時の禁煙指導18人（22人）＊令和6年度中間実績：集団健診全受診者の2.2%の喫煙者に実施
(7)歯・口腔
○口腔がん検診（歯科医師会、健康推進課）　　1回　57人　（1回58人）
(8)健康を支える社会環境整備
○健康づくりサポーター事業 ・登録団体　16団体 ・サポーター懇話会　1回 ・サポーターコラボイベント　総合体育館周年祭のブース協力（2団体） ・広報・ホームページ等による周知　　1記事 ・サポーター出前講座と介護予防出前講座を統合したパンフレットによる利用促進 ○健康づくりポイント事業 ・健康づくりスタンプラリーの実施 ・ 伊達市ポイントカード運営協議会だより（はがき）や会員向けダイレクトメール配信による健診情報の周知

各種健（検）診事業

※令和6年度中間実績：集団健診10月末現在、個別健診9月末現在　　**別紙**

1．特定健診、特定保健指導

（1）進捗状況と今後について

・特定健診は、保険医療課にて業者委託によるハガキでの健診勧奨を継続
令和6年度中間値では特定健診については昨年度より受診率がやや低下、健康診査では昨年度より受診率がやや上昇。

・特定保健指導の実施率は集団健診では高く、個別健診では低くなっている。
個別健診では希望しないケースが多いため、今後も特定保健指導を受けることのメリットを伝え、積極的に勧奨していく。

・ヘルスアッププログラム「からだ改善㊙講座」は少人数ながら参加者の満足度は高い。特定保健指導対象者の参加者が少ないため、実施方法等を検討していく。

▽特定健診受診者数

	対象者	集団	個別	計	受診率
令和6年度中間実績	5,520	402	326	728	13.2%
令和5年度実績	5,036	996	755	1,751	34.8%

▽健康診査受診者数

	対象者	集団	個別	計	受診率
令和6年度中間実績	6,612	428	149	577	8.7%
令和5年度実績	7,293	524	287	811	11.1%

▽特定保健指導実施状況

	令和6年度中間実績				令和5年度実績	
	対象者	発生率	実施者	実施率	対象者	実施率
集団	15	3.7%	13	86.7%	114	77.2%
個別	34	10.4%	3	8.8%	84	38.9%

▽ヘルスアッププログラム「からだ改善㊙講座」

		7月	12月	3月	小計	計
令和6年度中間実績	特保実施者	1	実施予定		1	2
	高血圧・高血糖者	1			1	
	希望者	0			0	
令和5年度実績	特保実施者	1	2	3	6	28
	高血圧・高血糖者	2	9	9	20	
	希望者	0	0	2	2	

2．がん検診

（1）進捗状況と今後について

・集団検診（胃・肺・大腸）の受診率は昨年度より増加しているが、子宮・乳がん検診は昨年より減少。
・乳がん検診のクーポン利用者は多いが、子宮がん検診の利用者は少ないため、対象者に積極的に受診勧奨していく。
・乳がんを除いた全てのがんにおいて精密検査受診率が低いため、引き続き精検受診勧奨に努める。
・精密検査の結果、胃がんが2名、肺がん・大腸がん・乳がんが1名ずつ発見されている。

▽がん検診受診者数

	対象数	集団	個別	計	受診率	クーポン配付	（再掲）クーポン	クーポン利用率
胃がん	22,692	532	44	576	2.5%			
肺がん	22,692	1,474	331	1,806	8.0%			
大腸がん	22,692	857	551	1,408	6.2%			
乳がん	12,545	350	83	433	7.1%	155	24	15.5%
子宮がん	14,788	343	82	425	9.9%	99	4	4.0%

▽がん検診実績数

	受診率		要精検率		精検受診率		クーポン利用率	
	R6	R5	R6	R5	R6	R5	R6	R5
胃がん	2.5%	1.8%	6.4%	4.9%	37.8%	50.0%		
肺がん	8.0%	4.3%	1.9%	2.0%	32.4%	60.0%		
大腸がん	6.2%	3.9%	7.8%	7.2%	37.3%	44.6%		
乳がん	7.1%	13.7%	3.5%	2.7%	66.7%	66.7%	15.5%	10.3%
子宮がん	9.9%	11.0%	1.2%	1.6%	60.0%	85.7%	4.0%	3.5%